

## ビッグデータ活用や大規模統合基板向けエンタープライズサーバ 「NX7700x/A2080H-240」を発売

NECは、ビッグデータを活用した需要予測システムや高度な仮想化機能を活用した大規模な統合システム基盤の構築に適した、Linux対応のエンタープライズサーバ「NX7700x/A2080H-240」の販売を開始した。

昨今、街や公共交通などのパブリックセーフティや、エネルギーの需要予測など、ビッグデータを活用した社会インフラ分野のIT基盤では、大量かつ複雑なデータ処理を行うための性能と、大規模な拡張性が求められている。また、企業内の複数業務を仮想化基盤上で統合する大規模な統合システム基盤のニーズも増加している。NECが販売を開始した「NX7700x/A2080H-240」は、大規模演算処理能力を効率よく利用できる柔軟な拡張性により、これらのニーズに応えたエンタープライズサーバだ。本製品は、最大15コアの最新CPUインテル(R) Xeon(R) プロセッサ E7 v2 製品ファミリーを16プロセッサ(240コア)搭載可能で、大規模演算処理能力を効率よく利用できる柔軟な拡張性を実現している。これにより、エネルギーの需要予測やインフラ設備の劣化予測など社会インフラ分野のIT基盤や、企業内の複数業務を効率的に運用する統合システム基盤として活用が可能だ。

### 特長① クロスバー構造採用による柔軟な拡張性を実現

サーバ筐体に複数のブレードサーバを搭載可能なクロスバー構造を採用し、高さ18Uに最大8枚のブレードサーバを搭載することが可能で、物理パーティション機能により、ブレード単位で結合・分割(1、2、4、8ブレード単位での結合・分割が可能)することもできる。これにより、容易に性能の追加・分割が可能になるとともに、分割した各システムにおいて万が一障害が発生した場合でも、障害の波及や他システムの停止を回避することが可能だ。さらに、データ量の増加時にも、ブレードのパーティション区分の変更を行うことで、最適な性能に合わせた拡張が可能だ。

### 特長② 最大16プロセッサ(240コア)、12TBの大容量メモリを搭載可能

1CPUあたり15コアの、最新のインテル Xeon プロセッサ E7v2 製品ファミリーを最大16個(240コア)、メモリ容量は最大12TBまで拡張が可能。

### 特長③ 自己診断や耐障害機能により高信頼基盤を実現

CPUコアやメモリを監視し、ハードウェア障害の際でもサーバ筐体に搭載された「AnalysisEngine」により、障害箇所の特定や障害原因や対策を管理画面に明示する自己診断機能を搭載している。また耐障害機能により、万が一I/Oエラーが発生した場合でも、リトライ処理の実施や、対象のI/Oカードをシステムから切り離すことで、直ちにシステムを停止することなく業務を継続することが可能だ。これらの機能により、高度な分析処理中の予期せぬ中断などのリスクが低減され、社会インフラの業務基盤として運用することが可能だ。



左：NX7700x/A2080H-240(ラック搭載)  
右：NX7700x/A2080H-240

### ● NEC

プラットフォームビジネス本部

TEL：03-3798-9547

### 運用を自動化するプライベートクラウドを提供

～独自のプライベートクラウドソリューション「VM Pool」にSDN機能を追加～

伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）は、独自のプライベートクラウドソリューション「VM Pool」シリーズに、VMware社のネットワーク仮想化ソフトウェア「VMware NSX」とITサービス自動化ソフトウェア「VMware vRealize Automation」をラインナップに追加し、運用の自動化機能を備えたプライベートクラウドソリューション「Next Generation VM Pool」として販売を開始した。

Next Generation VM Poolは、検

証済みのプライベートクラウド環境に加え、ネットワーク設定の自動化や高度なセキュリティ、エンドユーザー自身によるセルフサービス機能等をパッケージ化したソリューションだ。Next Generation VM Poolを使用することにより、仮想サーバの移動や増減に伴うネットワーク変更、社内でのインフラサービスの提供等が自動化されているため、システム管理業務を効率化することができ、運用コストを最大で6割削減できる。

CTCは、クラウド間やデータセンター間でのシステム連携を、ソフトウェアにより効率的かつ自動的に管理するITインフラソリューションとして、SDI（Software Defined Infrastructure）というコンセプトを掲げている。今後も、SDIを実現するため、SDS（Software Defined Storage）機能やハイブリッドクラウド連携など、Next Generation VM Poolの機能を拡充していく予定だ。

●伊藤忠テクノソリューションズ

TEL : 03-6203-4100

### エンタープライズ向けハイブリッドクラウドソリューションを提供開始

～顧客環境に簡素化、選択肢、俊敏性を提供するサービスとソリューション～

EMC ジャパンは、「EMC Enterprise Hybrid Cloud ソリューション（以下、EHC ソリューション）」の提供を開始した。EHC ソリューションは、EMCとVMwareのハードウェア、ソフトウェア、サービスを統合し、パブリッククラウドとプライベートクラウド両方のメリットを活用できるソリューションだ。また、ベストプラクティスやリファレンスアーキテクチャを使用することで、わずか4週間でIT-as-a-service（ITaaS）を実装することができ、パ

ブリッククラウドサービスの速さと俊敏性、プライベートクラウドインフラストラクチャの管理のしやすさとセキュリティ面における安全性を両立することが可能だ。

クラウド環境は、企業が新たなビジネスモデルやサービスを迅速に開発、提供するためのプラットフォームとして、日本国内でも普及していくと予想されている。しかし、クラウド環境を利用するためには、適切な技術の選択や人材の育成など、様々な課題を解決していく必要があ

る。EHC ソリューションは、これらの課題の解決策を提供するものだ。

また、急速に変化し続けるビジネスのニーズに対応するためには、プライベートとパブリックの両方を適材適所で活用することは必須の要件になっている。EHC ソリューションは、このようなニーズに合わせてプライベート、パブリック両方のクラウドサービスを柔軟に利用することができる選択肢を企業に提供する。

●EMC ジャパン

E-mail : japanpr@emc.com

## アシスト

## インメモリ・コンピューティングで社内の情報活用をシンプルに最適する インメモリ情報活用プラットフォーム「HAYATE」を販売開始

アシストは、同社の取扱製品である「Oracle Database In-Memory」と連想型高速インメモリ BI プラットフォーム「QlikView」、そしてオペレーショナル BI プラットフォーム「WebFOCUS」をベースエンジンとし定型から自由検索までを実現する「WebFOCUS EVO」を組み合わせたインメモリ情報活用プラットフォーム「HAYATE」を提供開始する。

従来の「情報活用基盤システム」は、業務処理用の基幹データベースとモニタリング・検索用途の DWH シス

テム、そして分析・探索用のデータマートで構成され、基幹データベースの情報をそれぞれのシステムに同期させ、処理しているためデータの鮮度が低下するという課題があった。こうしたシステム構成では、基幹データベースに存在する「今」のトランザクション・データを活用した意思決定や、センサーデータなどの M2M のリアルタイム分析を実現するのは困難だった。

「HAYATE」は、Oracle Database In-Memory オプションにより劇的に

処理の高速化を実現した Oracle Database 12c Enterprise Edition、QlikView、WebFOCUS EVO を組み合わせ合わせたもので、インメモリ・コンピューティング技術によって、情報処理の高速化とリアルタイムな情報活用・分析を強力に支援するものだ。従来、約 3 時間かかっていた DWH 内にある 10 億件の販売履歴の分析処理が、およそ 1,600 分の 1 のスピードで完了可能だ。

## ●アシスト

TEL : 03-5276-5850

## リバーベッドテクノロジー

## ハイブリッド・エンタープライズにおけるアプリケーションの最適化、 可視化、制御を実現する強力な SteelHead アプライアンスを発表

リバーベッドテクノロジーは、最も強力な Riverbed SteelHead アプライアンスを発表した。

WAN 最適化ソリューションである Riverbed CX 70 シリーズは、ハードウェアのフォームファクタを刷新した。これは SteelHead 9.0 と Riverbed SteelCentral AppResponse 9.5 によって 2014 年 11 月に実現された、オンプレミス、クラウド、SaaS のアプリケーション・パフォーマンスを加速するための、最も包括的な可視化、制御、最適化のソリューション

を補完する。新しい SteelHead CX 70 シリーズでは、優れたスケーラビリティとアプリケーション・パフォーマンスの向上を目指し、SSD ベースのアーキテクチャ、RAM の二重化、処理能力の増強など、ハードウェアが全面的に刷新されている。

SLA に従いオンプレミス、クラウド、SaaS の全アプリケーションを確実に稼働させるには、ソースからエンドユーザーまでの可視化、制御、最適化が必要だ。これに対処するため、SteelHead CX 70 シリーズは増え続

けるエンドユーザーと Web ベースのアプリケーション間の接続を安全に最適化する。IT では集中型ネットワーク環境からクラウド・インフラストラクチャへの移行が進んでいることから、SteelHead はビジネスニーズに基づきアプリケーションの最適化とネットワークトラフィックの優先順位付けを行う一方で、トラブルシューティングや修正、ネットワークトラフィック情報も提供する。

## ●リバーベッドテクノロジー

TEL : 03-5423-6777